



コロナ禍における信用金庫の業種別貸出金動向 -飲食・宿泊業など個人向け対面サービスで高い伸び-

視点

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う4月の緊急事態宣言発令から間もなく半年となる。本稿では、コロナ禍における信用金庫の貸出金動向を業種別に確認する。

要旨

- コロナ禍において運転資金の伸び率が高い業種は、飲食業、生活関連サービス業、娯楽業、宿泊業などであり、個人向けに対面でサービスを行う業種、比較的小規模な事業者に対して、信用金庫が機動的な資金繰り支援をしてきたことが分かる。
- 中小企業の資金繰り判断D.I.においても、サービス業、飲食業を含む小売業で落込みが大きく、業種別貸出動向と符合する。また、いずれの業種でも7～9月期は前期に比べて改善しており、現状、資金繰り判断D.I.の底は4～6月期であった。
- コロナ禍による個人向け貸出への影響は、消費性ローンにあらわれており、カードローン等の減少幅が大きく拡大した。消費支出の減少によって借入需要が減少したほか、特別定額給付金等の支給によって返済が進んだためだと考えられる。
- 信用金庫によるコロナ禍における応急的な資金繰り融資は、依然として高水準ではあるが、月次データがある新規貸出実行額および残高増減額のいずれをみても、ピークは6月であり、その後7、8月には鈍化している。
- 信用金庫においては、応急的な資金繰り融資が一巡した後は、「新しい日常」において取引先中小企業が収益を確保するために、業種に応じた本業支援など中小企業のニーズにかなったサポートを行っていくことがこれまで以上に重要となろう。

キーワード

コロナ禍、資金繰り、業種別貸出金、対面サービス、カードローン

目次

はじめに

- 1. 業種別貸出の動向
- 2. 業種別の景気動向
- 3. 個人向け貸出の動向
- 4. 最近の動向

おわりに

はじめに

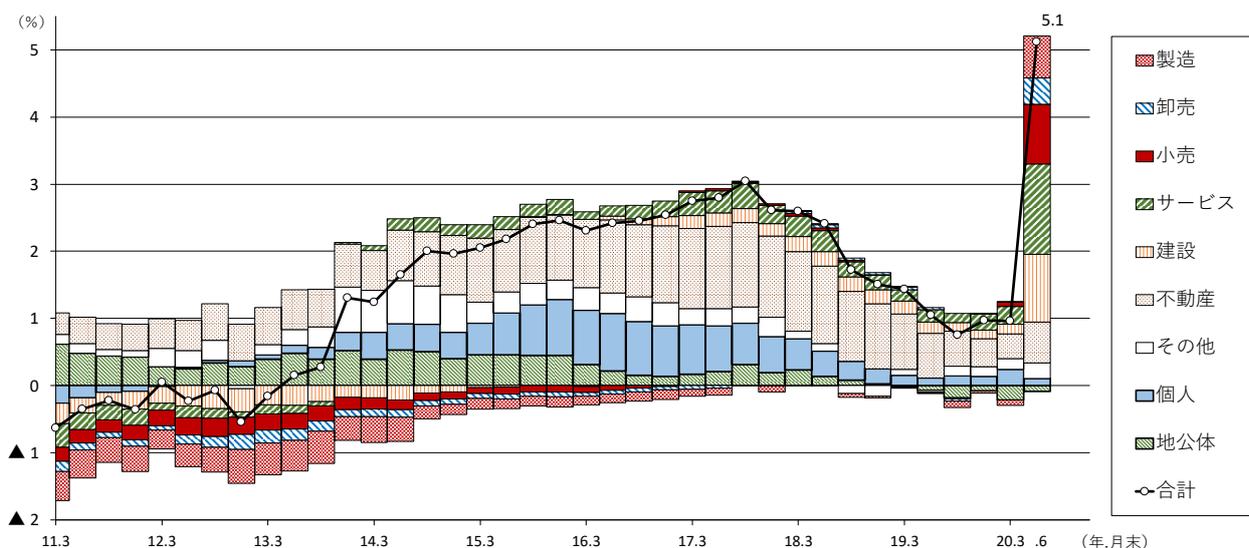
新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う4月の緊急事態宣言発令から間もなく半年となる。本稿では、コロナ禍における信用金庫の貸出金動向を業種別に確認する¹。

1. 業種別貸出の動向

(1) 近年の動向

信用金庫の最近約10年間の貸出金動向を振り返る(図表1)。2009年度以降減少が続いていた信用金庫の貸出金は、黒田日銀総裁の量的・質的金融緩和導入(13年4月)後、四半期ベースでは13年6月末に前年同月比で増加に転じた。低金利を背景とした不動産向け、住宅ローンを主因に、18年6月末までは同2%を上回る堅調な伸びが続いた。18年11月以降の景気後退局面になると貸出金伸び率も鈍化していたが、20年6月末に同5.1%増となり、コロナ禍の影響から多くの業種で急増した。

(図表1) 最近約10年間の信用金庫の貸出金動向(前年同月末比伸び率と寄与度)



(備考) 1. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 業種区分は、後述の「全国中小企業景気動向調査」の分類に合わせて再構成

¹ コロナ禍における信用金庫の預金・貸出金の動向については、「金融調査情報(2020-25) コロナ禍における信用金庫の預貸金動向 -制度融資と給付金で急増も7月以降は鈍化傾向-」も参照

(2) コロナ禍における業種別貸出金動向

コロナ禍で急増した信用金庫の企業向け貸出について、四半期毎の「業種別貸出金調査表」により、業種別および設備・運転資金別に最近の動向をみる(図表2)。

20年6月末の全国255信用金庫の企業向け貸出金は合計で約49.3兆円、うち過半の約26.8兆円、54.3%を運転資金が占める。伸び率では、企業向け貸出全体が前年同月末比7.9%増、うち運転資金が同14.3%増、設備資金が同1.1%増であった。企業向け貸出全体の増加に対する寄与率では運転資金が92.6%と、貸出金増加要因のほとんどは、コロナ禍における資金繰り資金の急増である。

さらに業種別に運転資金の寄与率をみると、高い順に、建設業(18.6%)、製造業(11.7%)、小売業(9.4%)、飲食業、その他のサービス(ともに8.5%)となる。これらの業種のうち、製造業と建設業は、残高構成比がそれぞれ10.4%、9.1%と高く、残高の大きさも寄与率の高さに影響している。建設業については、サプライチェーン・物流の混乱による建設資材調達の滞り、感染拡大防止のための工事中止などから、運転資金の前年同月比伸び率が17.5%増と、資金繰り資金の借入が増加した。製造業についても、世界的な需要減、サプライチェーンの変容などの影響を受け、運転資金の伸び率は同9.0%増となった。

製造業と建設業は、残高構成比の高さもあり高い寄与率となった。他方で、残高構成比が低い一方で非常に高い伸び率を示した業種も多い。

(図表2) 信用金庫の業種別貸出金 (2020年6月末、伸び率・寄与率は前年同月比)

(単位: 億円、%)

	信用金庫											
					うち設備資金				うち運転資金			
	残高	構成比	伸び率	寄与率	残高	構成比	伸び率	寄与率	残高	構成比	伸び率	寄与率
製造業	64,762	13.1	7.3	12.1	13,244	2.6	1.3	0.4	51,517	10.4	9.0	11.7
農業、林業	1,484	0.3	6.4	0.2	567	0.1	4.7	0.0	917	0.1	7.5	0.1
漁業	538	0.1	△ 0.2	0.0	108	0.0	0.1	0.0	429	0.0	△ 0.3	0.0
鉱業、採石業、砂利採取業	554	0.1	1.6	0.0	129	0.0	4.0	0.0	425	0.0	0.9	0.0
建設業	56,992	11.5	14.5	19.8	11,657	2.3	4.0	1.2	45,334	9.1	17.5	18.6
電気・ガス・熱供給・水道業	2,901	0.5	17.6	1.1	2,436	0.4	18.6	1.0	464	0.0	13.0	0.1
情報通信業	3,248	0.6	20.4	1.5	502	0.1	△ 1.3	0.0	2,745	0.5	25.5	1.5
運輸業、郵便業	16,781	3.3	13.0	5.3	5,621	1.1	4.3	0.6	11,159	2.2	17.9	4.6
卸売業	30,722	6.2	10.0	7.7	4,480	0.9	2.3	0.2	26,242	5.3	11.4	7.4
小売業	28,785	5.8	13.4	9.3	6,610	1.3	△ 0.3	0.0	22,175	4.4	18.3	9.4
金融業、保険業	23,416	4.7	5.0	3.0	470	0.0	12.3	0.1	22,945	4.6	4.8	2.9
不動産業	172,691	34.9	2.5	11.8	138,501	28.0	1.1	4.4	34,190	6.9	8.5	7.4
物品賃貸業	2,946	0.5	4.2	0.3	562	0.1	△ 3.3	0.0	2,384	0.4	6.2	0.3
学術研究、専門・技術サービス業	5,198	1.0	16.7	2.0	1,495	0.3	1.0	0.0	3,703	0.7	24.5	2.0
宿泊業	6,558	1.3	9.6	1.5	4,023	0.8	0.8	0.0	2,535	0.5	27.1	1.4
飲食業	11,706	2.3	33.4	8.0	4,284	0.8	△ 4.0	△ 0.4	7,422	1.5	72.1	8.5
生活関連サービス業、娯楽業	12,778	2.5	14.4	4.4	5,347	1.0	△ 2.1	△ 0.3	7,431	1.5	30.5	4.7
教育、学習支援業	3,323	0.6	7.9	0.6	2,086	0.4	△ 0.1	0.0	1,237	0.2	25.2	0.6
医療・福祉	22,838	4.6	2.9	1.7	14,121	2.8	△ 1.0	△ 0.3	8,716	1.7	10.0	2.1
その他のサービス	25,333	5.1	14.4	8.7	9,049	1.8	0.7	0.1	16,283	3.2	23.7	8.5
企業向け計	493,626	100.0	7.9	100.0	225,336	45.6	1.1	7.3	268,289	54.3	14.3	92.6

(備考) 1. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 網掛けは、構成比、伸び率、寄与率の各項目での上位5業種

(3) 高い伸び率を示した業種

運転資金の伸び率が高い業種は、「飲食業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「宿泊業」などであり、個人向けに対面でサービスを行うものが多い。これらの業種では、コロナ禍で人の移動が制約されたことを背景に、高い伸び率となった(図表3)。

6月末の前年同月比伸び率が主要業種で最も高かったのは「飲食業」で、72.1%増であった。外出自粛による来店客の急減、営業自粛要請のため、早い時期から売上が急減した店舗が多かったためと考えられる。

2番目に伸び率の高い「生活関連サービス業、娯楽業」は、同30.5%増となった。美容・美容業、旅行業、結婚式場など個人対象のサービスのほか、フィットネスクラブなどスポーツ施設、パチンコホール、カラオケボックス、映画館などの娯楽業からなる。

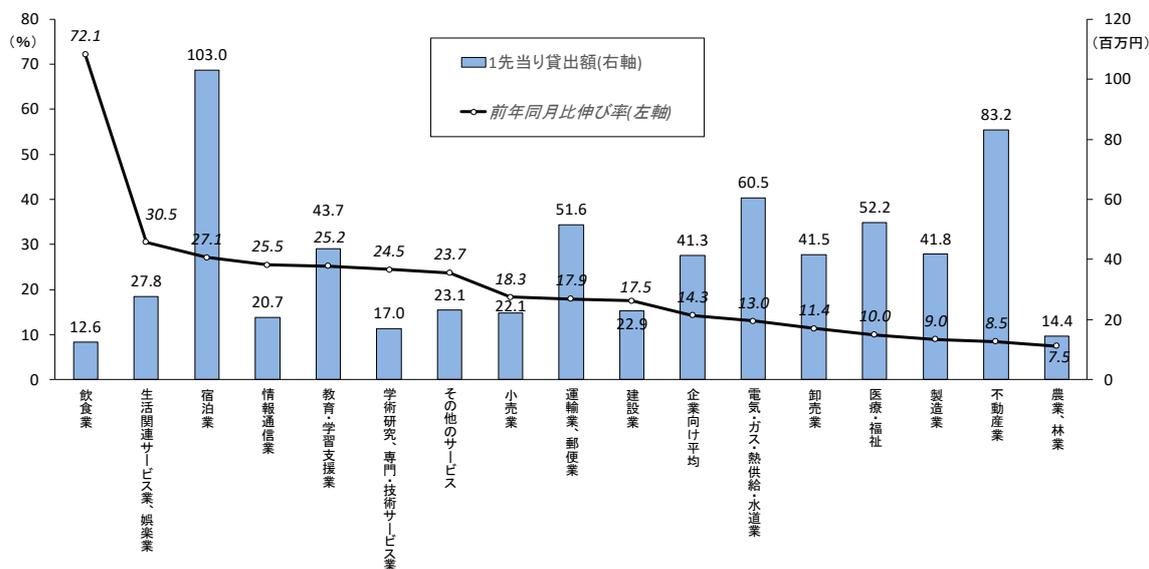
3番目に伸び率が高かったのは「宿泊業」で、伸び率は同27.1%増であった。2月頃からのインバウンド需要の急減に続いて、国内での外出自粛要請などから国内旅行、ビジネス需要も大きく落ち込んだ。

4番目の「情報通信業」は、25.5%の伸びであった。情報通信業には、通信業、放送業のほか、ソフトウェア業、情報処理・情報提供サービス業などの情報サービス業、インターネット附随サービス業が含まれる。対面サービスの要素は多くなく、むしろ、テレワークの普及等に伴う前向きな資金需要も含まれていると考えられる。

これらの業種について、1先当り貸出額の違いをみると、飲食業向けが最も小口で平均12百万円程度である。資金繰り資金の伸び率が相対的に高い業種は、宿泊業を除いて1先当り貸出額が比較的小さい業種が多い。この間の信用金庫の資金繰り支援は、コロナ禍の影響をより直接的に受けた個人向け対面サービスを行う業種、比較的小規模な事業者に対して、機動的な対応をしてきたことが分かる。

(図表3) 業種別にみた運転資金の伸び率と1先当り貸出額

(伸び率は2020年6月末の前年同月比、1先当り貸出額は2020年3月末)



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 業種別の景気動向

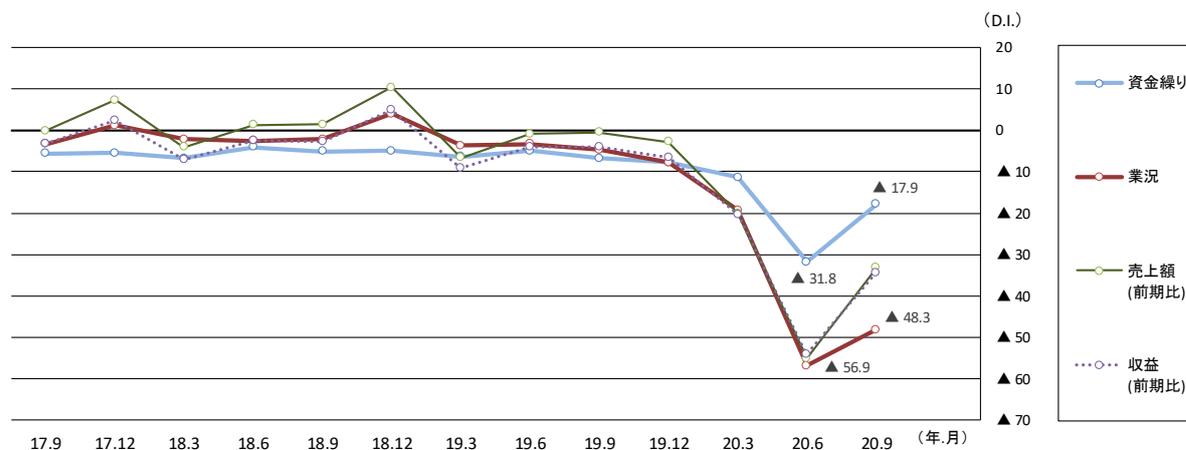
(1) 7～9月期までの中小企業の景気動向

信用金庫による貸出は、個人向けに対面でサービスを行う業種で特に高い伸びを示していた。一方で、信用金庫取引先の中小企業からみた最近の業況、資金繰り判断については、「全国中小企業景気動向調査」²により 20 年 7～9 月期までの動向が把握できる。

全国の信用金庫の協力を得て取りまとめた同調査によると、今期 7～9 月期（調査時点は 9 月 1 日～7 日）の業況判断 D. I. は、△48.3、前期比 8.6 ポイントの改善となった（図表 4）。来期 10～12 月期の予想業況判断 D. I. は、△47.1 と今期実績比 1.2 ポイントの改善を見込んでいる。信用金庫取引先の業況判断 D. I. は、リーマン・ショック後（△55.3）を下回る 4～6 月期の△56.9 を底に、依然として最悪水準ではあるものの改善している。

また、資金繰り判断 D. I. についても、4～6 月期の△31.8 を底に 7～9 月期は△17.9 に大きく改善している。売上額（前期比）D. I.、収益（前期比）D. I. についても、同様に 4～6 月期を底に改善している。

（図表 4）業況・資金繰り判断 D. I. 等の推移（総合）



（備考）「全国中小企業景気動向調査」より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(2) 業種別の資金繰り判断 D. I.

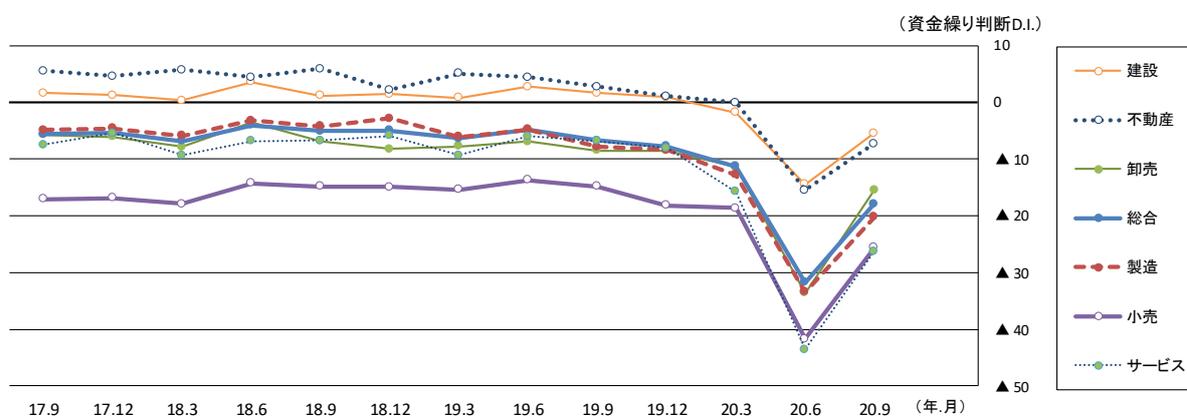
運転資金の借入に影響する信用金庫取引先の資金繰り判断 D. I. について、業種別の動向をみる（図表 5）。同調査における 6 業種について、資金繰り判断 D. I. の推移をみると、いずれの業種とも、全業種である総合と同様に 4～6 月期に大きく落ち込み、7～9 月期は大きく改善している。

² 詳細は、信金中央金庫 地域・中小企業研究所による「第 181 回全国中小企業景気動向調査速報版～7～9 月期業況は改善するも依然として最悪水準続く～（特別調査：新型コロナウイルスの感染拡大を受けた中小企業の対応について）」（2020 年 9 月 29 日、<https://www.scbri.jp/keikidoukou.htm>）を参照

ただし、4～6月期の資金繰り判断 D. I. の落ち込みの深さには違いがみられた。より低い水準まで落ち込んだのがサービス業(△43.6)、飲食業を含む小売業(△41.7)であった。総合(△31.8)と同程度の落ち込みだったのが卸売業(△33.6)および製造業(△33.4)、比較的落ち込み幅が小さかったのが不動産業(△15.5)および建設業(△14.5)であった。

また、いずれの業種でも、今期7～9月期は、前期に比べて改善しており、資金繰り判断 D. I. の底は、現時点では4～6月期であった。ただし、7～9月期の資金繰り判断 D. I. の水準は、いずれの業種でも3月上旬に行われた前々期1～3月期の水準までは回復していない。

(図表5) 資金繰り判断 D. I. の推移(業種別)



(備考) 「全国中小企業景気動向調査」より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

前述したように、信用金庫の貸出の面からは、特に個人向けに對面でサービスを行う業種で資金繰り資金が急増していた。他方、信用金庫取引先の中小企業の資金繰り判断 D. I. においても、サービス業および小売業で落ち込みが大きかった。「全国中小企業景気動向調査」におけるサービス業には旅館、娯楽業などが、小売業には通常の商品販売のほかに飲食店も含まれており、業種別貸出の動向とも符合している。

3. 個人向け貸出の動向

(1) 近年の動向

貸出残高の3割弱(20年6月末で27.0%、全信用金庫計で約20.3兆円)を占める個人向け貸出についても、企業向け貸出ほど急激な動きではないものの、コロナ禍の影響があらわれている。

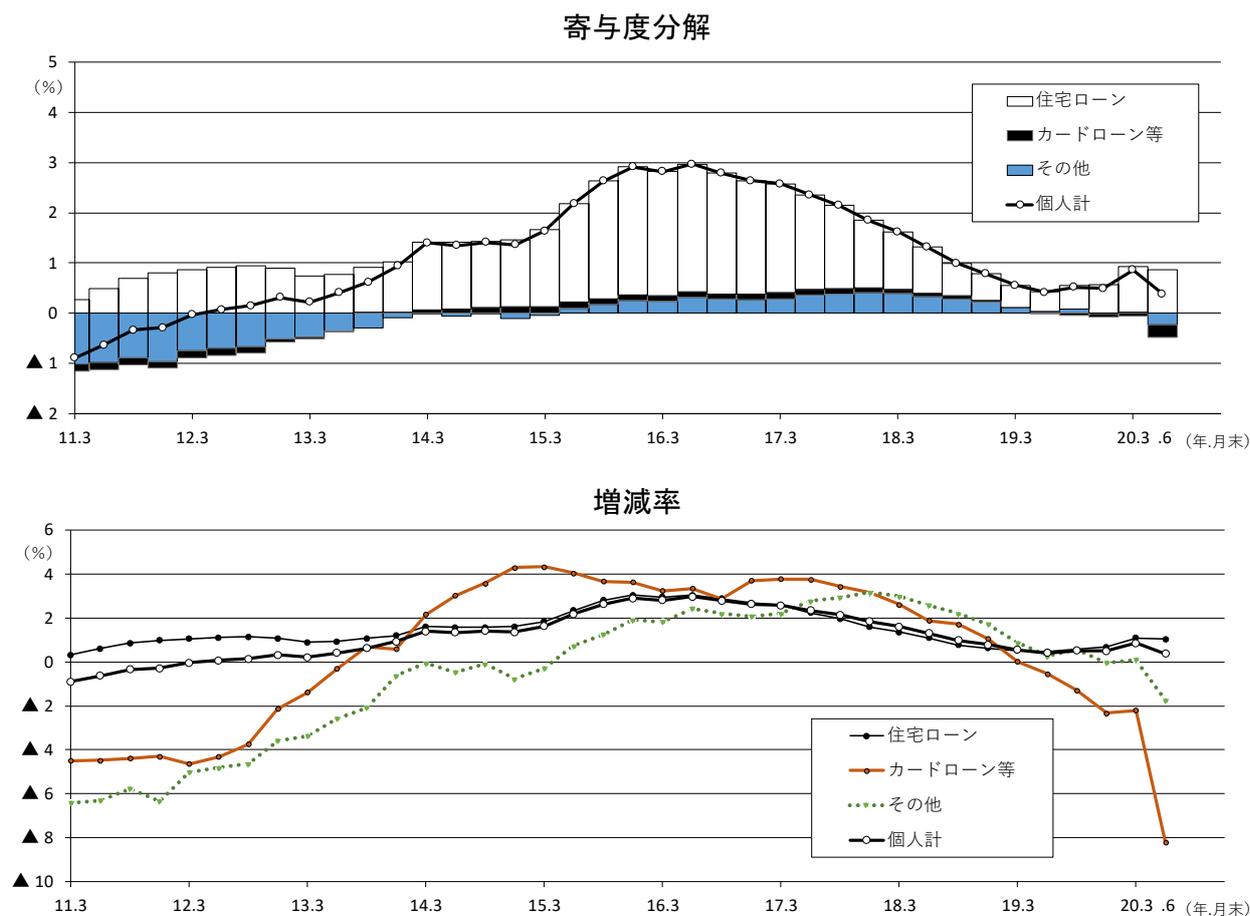
なお、信用金庫の個人向け貸出のほとんどは住宅ローンである。20年6月末時点の構成比は、個人向け貸出のうち84.2%が住宅ローン(割賦返済の個人向け設備資金)、2.7%がカードローン等、「その他の個人向け貸出」(割賦返済ではない住宅資金やカードローン形態ではない消費性資金等)が12.9%である。

個人向け貸出の最近約 10 年間の推移をみると、12 年 6 月末にプラスに転じて以降、低金利を背景に住宅ローンを主因に伸び率を高めてきた(図表6)。また、住宅ローン以外の個人向け貸出についてもマイナス幅が縮小し、カードローン等は 13 年 9 月から、その他は 15 年 6 月から増加に転じている。背景には、10 年 6 月に貸金業者に対する「総量規制」³が導入されたことで同規制の対象外である信用金庫や銀行の消費性ローンに借入がシフトしたことがあると考えられる。

(2) コロナ禍における個人向け貸出の動向

コロナ禍による個人向け貸出への影響は、消費性ローンに大きくあらわれている。残高構成比は小さいものの、カードローン等が 20 年 6 月末に前年同月比 8.2%減にまで急減、その他の個人向け貸出も同 1.7%減となった。外出やイベントの自粛に伴うレジャーや冠婚葬祭などの消費支出の減少によって借入需要が減少しただけでなく、1 人一律 10 万円の特別定額給付金等の支給によって返済が進んだためだと考えられる。

(図表 6) 最近約 10 年間の信用金庫の個人向け貸出の動向 (前年同月比)



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

³ 貸金業者からの借入残高が年収の 3 分の 1 を超える場合は新たな借入ができなくなるなど、過剰貸付を抑制するための規制

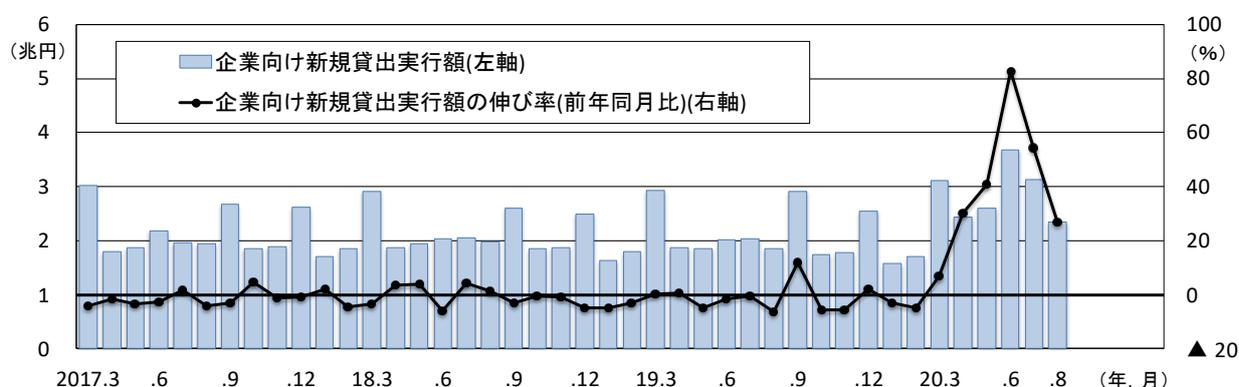
4. 最近の動向

(1) 月中の新規貸出実行額

これまでは、業種別の詳細がわかる四半期データを見てきたが、月次データを見るとコロナ禍の貸出金急増の動きにも鈍化傾向がみられる。

まず、「信用金庫付随統計表」により月次の新規貸出実行額の動きをみる(図表7)。信用金庫の企業向け新規貸出実行額は、緊急事態宣言が発令された4月に2.4兆円、5月に2.5兆円となり、6月には3.6兆円にまで増加していた。その後、7月は3.1兆円、8月は2.3兆円となり、6月をピークに鈍化している。

(図表7) 企業向け月中新規貸出実行額の推移

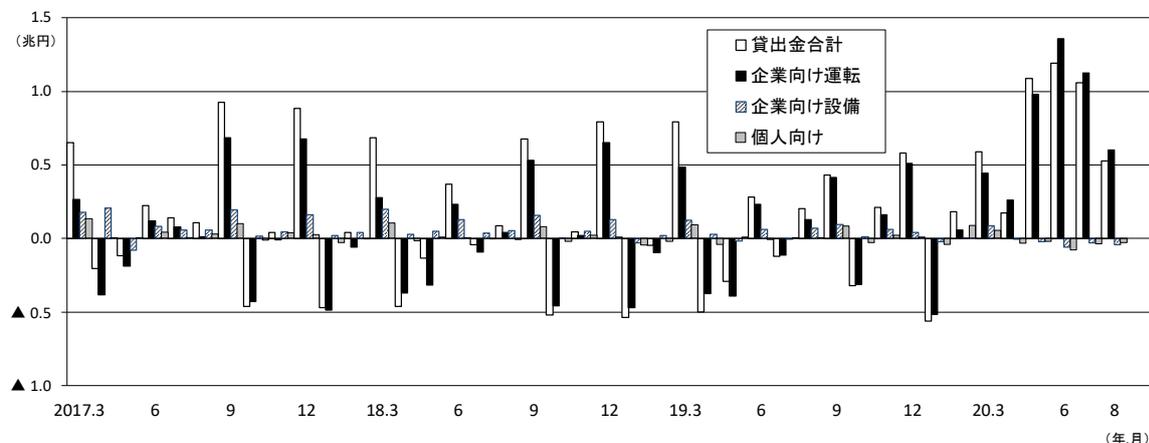


(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(2) 月中の貸出残高増減額

貸出金残高の月中の増減額の動きをみても、この間の貸出金の急増のほとんどが企業向け運転資金によるものであり、月中の増減額のピークは6月であったことが分かる(図表8)。

(図表8) 貸出金の月中増減額の推移



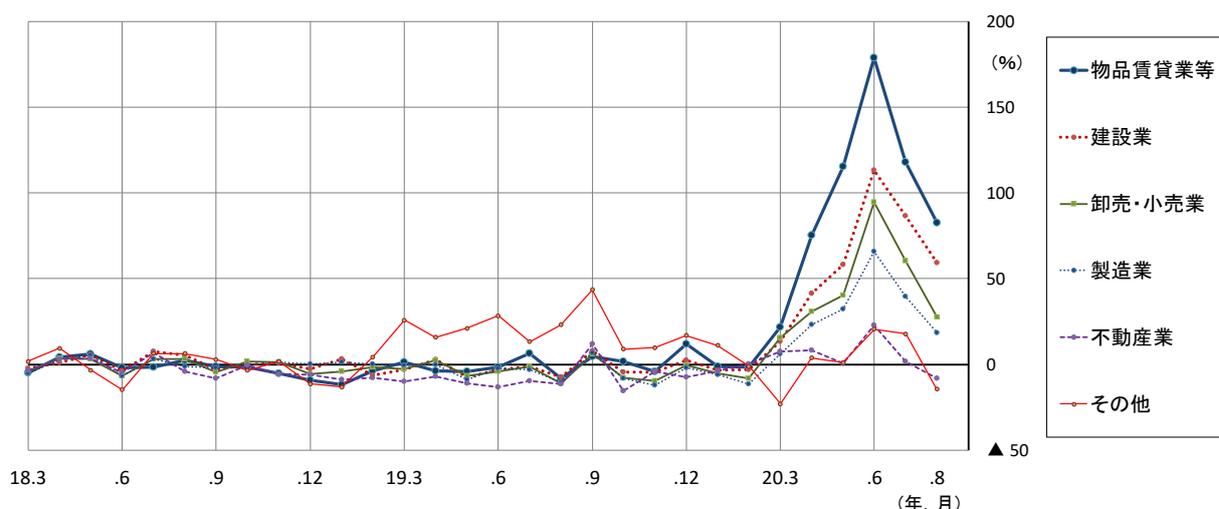
(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(3) 業種別にみた新規貸出実行額

また、月次の「信用金庫付随統計表」の業種区分により月中新規貸出実行額の動きをみる(図表9)。コロナ禍の影響があらわれている業種は、「物品賃貸業等」、「建設業」、「卸売・小売業」、「製造業」である。なお、「信用金庫付随統計表」の業種区分では、「物品賃貸業等」には、「物品賃貸業」、「学術研究、専門・技術サービス業」、「宿泊業」、「飲食業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「教育、学習支援業」、「医療・福祉」および「その他のサービス」が含まれている。個人向けに対面でサービスを行う業種が多く、4月の段階で前年同月比75.2%増の高い伸び率となり、6月には同178.7%増にまで高まっている。「物品賃貸業等」は、他の業種と比較しても借入が急増する時期が早く、6月のピーク時の伸び率が最も高かった。

6月の伸び率は、物品賃貸業等に次いで、建設業(同113.2%増)、卸売・小売業(同94.8%増)、製造業(同65.6%増)と続く。いずれの業種の伸び率も、ピークは6月であり、その後7、8月には鈍化している

(図表9) 業種別の月中新規貸出実行額の推移(前年同月比伸び率)



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

このように、信用金庫によるコロナ禍における応急的な資金繰り融資は、依然として高水準ではあるが、月次データがある新規貸出実行額および残高増減額のいずれをみても6月がピークだったと考えられる。また、個人向けに対面でサービスを行う飲食業、生活関連サービス業、娯楽業、宿泊業などを含む業種区分では、4月の早い時期から貸出実行額が急増しており、ピークの6月の伸び率も高かったことが分かる。

おわりに

本稿では、信用金庫の貸出先別、業種別にみた貸出金動向について、コロナ禍におけるこれまでの約半年間を振り返った。

業種別では、残高構成比は低いものの飲食業、生活関連サービス業、娯楽業、宿泊業などが非常に高い伸び率となった。個人向けに対面でサービスを行う業種が多く、人の移動が制約されるコロナ禍の影響をより直接的に被ったため、資金繰り資金の需要が急増したといえる。他方、「全国中小企業景気動向調査」による信用金庫取引先の資金繰り判断 D. I. においても、特にサービス業、飲食店を含む小売業で落込みが大きかった。飲食店をはじめとした比較的小規模な事業者の資金繰りの窮状に対応して、各信用金庫が機動的な資金繰り支援を行ってきたことがわかる。

月次データをみると、信用金庫によるコロナ禍における応急的な資金繰り融資は、実質無利子・無担保の制度融資の利用もあり依然として高水準であるものの、6月をピークに新規貸出実行額、月中増減額ともに鈍化している。信用金庫取引先の資金繰り判断 D. I. をみても、7～9月期は前期4～6月期から大幅に改善している。

新型コロナウイルスの感染収束が見通せないなか、資金繰りをはじめ中小企業の経営環境の今後についても予断は許されないが、信用金庫においては、応急的な資金繰り融資が一巡した後は、資金ニーズへの対応だけでなく、「新しい日常」において取引先中小企業が収益を確保していくために、業種に応じた本業支援など中小企業のニーズにかなったサポートを行っていくことがこれまで以上に重要となろう。

以 上
(井上 有弘)

本レポートのうち、意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。投資・施策実施等についてはご自身の判断によってください。

【バックナンバーのご案内：金融調査情報】（2020年度・第2四半期）

号 数	題 名	発行年月
2020-16	信用金庫の多面的評価制度の導入 -経営戦略 39-	2020年7月
2020-17	信用金庫の人事制度改革への取組み -経営戦略 40-	2020年7月
2020-18	信用金庫の「渉外センター制度」への取組み	2020年8月
2020-19	信用金庫の債権書類管理の集中化動向	2020年8月
2020-20	2019年度末における信用金庫の預金残高の増減状況 -トピックス～ネット支店（非対面取引支店）の出店動向～-	2020年8月
2020-21	2019年度末における信用金庫の常勤役職員の増減状況 -トピックス～ベテラン層職員の活躍拡大策～-	2020年8月
2020-22	2019年度末における信用金庫の出資会員数の増減状況 -トピックス～出資会員向け優遇サービスの例～-	2020年8月
2020-23	2019年度末における信用金庫の店外ATMの設置状況 -トピックス～地域銀行の取組事例～-	2020年8月
2020-24	2019年度末における信用金庫の個人預金口数の増減状況 -トピックス～未利用口座管理手数料の導入状況～-	2020年8月
2020-25	コロナ禍における信用金庫の預貸金動向 - 制度融資と給付金で急増も7月以降は鈍化傾向 -	2020年9月
2020-26	最近の信用金庫地区別預貸金増加率の動向	2020年9月

*バックナンバーは信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページを参照ください。

信金中央金庫地域・中小企業研究所 活動状況 (2020年9月実績)

○レポート等の発行状況

発行日	レポート分類	通巻	タイトル
20.9.2	ニュース&トピックス	2020-44	各業態とも応急的な資金繰り支援の増加額は鈍化 －制度融資が金利下押し圧力となる可能性も－
20.9.2	内外金利・為替見通し	2020-6	日銀は相当の期間にわたり、超緩和的な金融政策を維持 する見通し
20.9.9	ニュース&トピックス	2020-45	旭川信用金庫の「まちなか賑わい STREET」の実施につい て
20.9.10	金融調査情報	2020-25	コロナ禍における信用金庫の預貸金動向 －制度融資と給付金で急増も7月以降は鈍化傾向－
20.9.18	金融調査情報	2020-26	最近の信用金庫地区別預貸金増加率の動向
20.9.24	産業企業情報	2020-6	中小企業は「後継者不在」へいかに対応すべきなのか② －適切なタイミングを見据えた早めの対応がカギを握る 役員・従業員承継－

<信金中央金庫 地域・中小企業研究所 お問い合わせ先>

〒103-0028 東京都中央区八重洲1丁目3番7号

TEL: 03-5202-7671 (ダイヤルイン) FAX: 03-3278-7048

e-mail: s1000790@FaceToFace.ne.jp

URL <https://www.shinkin-central-bank.jp/> (信金中央金庫)

<https://www.scbri.jp/> (地域・中小企業研究所)